

2012年4月17日
矢崎総業株式会社

「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2012」

矢崎総業、日本初参加の千葉大チームに太陽熱給湯システムを提供

矢崎総業株式会社（社長：矢崎信二、資本金：31億9,150万円、本社：東京都港区）は、世界15か国20チームが参加する大学対抗ソーラー住宅競技大会「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2012」に千葉大学が日本で初めて参加することから、当社が製造販売している太陽熱給湯システム『エコキュート・ソーラーヒート』を同大に提供し、次世代ソーラー住宅の建築に協力します。

今回提供した「エコキュート・ソーラーヒート」の特長は以下の通りです。

1. 家庭で消費する「給湯用エネルギーの約8割」を再生可能エネルギーでまかなえる給湯システムです。
2. 昼は「太陽熱」、夜は「空気熱」という2つの再生可能エネルギーを利用します。
3. 「天候予測機能」と「給湯使用量学習機能」によって無駄なエネルギー利用を抑制します。
4. 「風呂熱回収機能」により、排熱エネルギーも有効活用します。

注) 千葉大学が建築するソーラーハウスは、シャワーのみで浴槽の設定がないため、風呂熱回収機能は活用していません。

当社が提供した「エコキュート・ソーラーヒート」は、特別仕様品ではなく、通常の市販品です。なお、「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2012」では、必要なエネルギーの全てを太陽エネルギーでまかなわなければならないことから、太陽熱依存度を上げるため、集熱器のみ通常の3枚から6枚に増やしたシステムとなっています。

太陽エネルギーの効率的な活用という観点からすると、給湯には太陽熱の利用が最も優れた方法であると当社は考えています。

当社では、千葉大学が「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2012」へ参加するのを機に、太陽熱利用の有用性を広くアピールしていきたいと考えています。

【ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2012について】

ソーラー・デカスロンは、世界の大学チームが太陽エネルギーを利用した住宅（ソーラー住宅）を建築してその優劣を競う大会です。住宅で使用する全てのエネルギーは太陽エネルギーでまかなわなければなりません。

デカスロンとは10種競技という意味で、エネルギー効率のほか、デザイン性、建築的完成度、快適性、持続可能性など10項目で審査されます。

2002年に初回が開催され、これまで6回開催されています。

「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ2012」は、応募33チームから書類審査で20チームが選ばれ、今年9月14日から30日まで、スペインのマドリードで開催されます。大会では、実際に建築されたソーラー住宅を国際審査団が審査し、グランプリが決定されます。

【写真】千葉大学が建築したソーラー住宅『おもてなしハウス』と、当社の太陽熱給湯システム『エコキュート・ソーラーヒート』（6枚並んだ集熱器）



エコキュート・ソーラーヒート一式（右）



この件に関するお問い合わせ先
矢崎総業株式会社 広報部

Tel. 055-965-3002

Fax. 055-965-0450

製品についてのお問い合わせ先
矢崎総業株式会社 環境システム事業部

Tel. 053-426-4770

Fax. 053-426-4785